

# 2019年度(令和元年度)学校評価自己評価表

東朋中学校区	校番 26	福山市立東朋中学校
最終更新日		2020年(令和2年)1月30日

## I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

## II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 21世紀“スキル&倫理観”	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	中学校区として 統一した取組等
<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の願いを聞き、小中9年間で地域に役立つ人材を育ててほしい。</li> <li>○地域と協力し、子ども達を地域の行事に積極的に参加させてほしい。地域との関わりをさらに深め、子ども達が主体的に活動できるようにしてほしい。</li> <li>○教育活動に関する情報を積極的に発信してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒、教職員のアンケートにおいて主体的な学びについて肯定的な回答が多い。しかし、すべての児童生徒の基礎的基本的な学力の定着にいたっていない。</li> <li>○児童会・生徒会を中心としたボランティア活動等に取り組み、自己肯定感の向上につながっている。</li> <li>○就寝、起床時刻、朝食に取り組んだが、就寝時間に課題がみられる。</li> <li>○郷土愛や地域貢献の意識の高まりはみられるが、積極的な参加になっていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題発見・解決能力</li> <li>○コミュニケーション能力</li> <li>○チャレンジ精神</li> <li>○思いやりと感謝の心(郷土愛・貢献)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題を正しく理解し、自分でより良い解決策を考える。</li> <li>○お互いを認め、話し合える。</li> <li>○工夫や努力で、成功させるための行動を継続できる。</li> <li>○色々なもののおかげで自分がいることを実感する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子ども主体の学びづくり</li> <li>○あいさつ運動や地域ボランティアなど、小中での主体的な活動の充実</li> <li>○体力や健康についての自己課題の解決</li> <li>○相手意識をもったわかりやすい情報発信</li> </ul>

## III 自校

<p>ミッション</p> <p>社会に貢献できる自立した生徒(=「自立貢献」の生徒)の育成</p>	<p>育成する力 21世紀“スキル&amp;倫理観”</p>	<p>課題発見・解決能力</p>	<p>コミュニケーション能力</p>	<p>チャレンジ精神</p>	<p>思いやりと感謝の心 (郷土愛・貢献)</p>
<p>学校教育目標</p> <p>自立貢献の生徒の育成</p>	<p>めざす子ども像</p>	<p>課題を正しく理解し、自分でより良い解決策を考える。</p>	<p>お互いを認め、話し合える。</p>	<p>工夫や努力で、成功させるための行動を継続できる。</p>	<p>色々なもののおかげで自分がいることを実感する。</p>
<p>現状</p> <p>&lt;児童生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「自分には良いところがある。」「学校生活で達成感や喜びを感じる。」「将来の夢や目標を持っている。」の割合は約80%である。一方で、「全くない」と思っている生徒が約4%程度おり、大きな課題である。</li> <li>○個性の違いを認める意識が低く、生徒間トラブルは少なくない。</li> <li>○「ボランティア活動に参加したことがある」生徒割合は約85%である。しかし、地域でのボランティアに参加する生徒は少ない。</li> </ul> <p>&lt;授業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「授業では新しい発見があったり、課題が解決できたりして楽しい」生徒割合は、83%。「授業で生徒が課題解決に取り組むよう工夫している」生徒割合は65%と開きがある。</li> <li>○「授業が分かる」と答えた生徒は、各教科平均で83%で、前年と変化がない。教科間の差がみられることにも課題がある。</li> </ul>	<p>研究</p> <p>教科等</p> <p>全教科、特別活動</p> <p>主題・内容等</p> <p>「生徒が主体的に学ぶ授業の創造」～授業づくりと学習集団づくりを通して～</p>	<p>めざす授業の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○すべての生徒が、自分なりの学びへの意欲をもてる授業</li> <li>○生徒が、自分で考えて課題解決に粘り強く取り組んでいる授業</li> <li>○生徒が、自分なりの考えを表現し、また受け入れられている授業</li> <li>○何が学べたのか、もっと学びたいのは何かを振り返る場面がある授業</li> <li>○生徒が、皆と一緒に学ぶから勉強がよく分かったと思える授業</li> </ul>			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立東朋中学校

年 目	中期経営目標	重 点 分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
						□指標に係る 取組状況	70%以上 達成評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70%以上 達成評価	総合 評価	改善方策		
3	主體的に学ぶ 授業づくりを進め、確かな 学力をつける	★ 継続	分かる、楽しい 授業づくりの 推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育(ユニバーサル デザイン)を意識した授業改 善と研究授業</li> <li>模擬授業の実施</li> <li>月ごとにテーマを決め、 「授業のベーシックスキ ル」を高める</li> </ul>	「授業が分かる」85%以上  「授業で考えることが面白 い」85%以上	「授業が分かる」 82.4%、「授業で考える ことが面白い」70.7% 小中合同研修会で研究授 業を行った。教職員アン ケートでは「明るく元気 な声で対応」91. 3%、「生徒のつばやき を生かす」95.5% 授業のベーシックスキ ルを意識した授業を行う ようになっている。	3	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会で模擬授業を 行ない、発問の仕方を 工夫するなど生徒が考 える授業展開を行う。 また、話し合い活動を 中心とした授業を取り 入れる。</li> <li>月ごとにテーマを決 め全職員に周知し、意 識した授業を行う。</li> </ul>	「授業が分かる」 84.0%、「授業で 考えることが面白 い」70.9% すべての生徒が 満足する授業には まだ工夫の余地が ある。 教職員アンケ ートでは「明るく元 気な声で対応」 95.7%、「生徒の つばやきを生か す」95.7% 研修で確認した 授業のベーシックス キルを取り入れた授 業に取組むことが できた。	3	2	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>発問を工夫し、す べての生徒に考える 時間がある授業づく りを研修する。</li> <li>話し合い活動を中 心とした授業を実践 していく。</li> <li>生徒も教師もワ クワクできる授業づく りに向けた研修を推 進する。</li> </ul>
			積極的に読書 をする習慣を つける	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書室を活用した授業展開</li> <li>図書室の環境作り</li> <li>図書委員による自主的な活 動の推進</li> </ul>	「1週間に1回以上図書室を 利用する」30%以上	「1週間に1回以 上図書室を利用」 31.2% 委員会で朝読点 検を行い読書の時 間を位置つけた。 また、読書感想文 の授業で図書室を 利用して行った。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が利用しやすい 図書の配置やその時期 に興味を引く本の紹介 をするなど図書室の環 境づくりを進める。</li> <li>図書委員会が中心と なっておすすめの本を 生徒自身が紹介するな ど、読書をする習慣が つくような活動を充実 させる。</li> </ul>	「1週間に1回以 上図書室を利用」 40.9% 図書室を利用する 生徒が増えた。 図書委員会の活動 で、お助めの本の 「ポップコンテス ト」を行うことで本 に対する興味を高め ることができた。	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書室を活用した 授業を実施する。</li> <li>図書館司書と連携 して図書室の環境づ くりを進める。</li> <li>図書委員会を活用 して、読書習慣の定 着への取組を行う。</li> </ul>
			授業に集中し ている学習集 団づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習班や生活班を効率よく 活用した学習活動の取り組 み</li> </ul>	「授業で、自分の考えは認め られている」80%以上	「授業で自分の考 えは認められてい る」74.9%「自 分の学級は、授業 中全員の学習が深 まるよう協力して いる」82.1% 生徒は、授業に 積極的に取り組ん でいる。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決学習を取り 入れ生徒が議論できる 展開に意図的に仕組 み、班にこだわらない 話し合い活動を活発に する。</li> </ul>	「授業で自分の考 えは認められてい る」76.0%「自分 の学級は、授業中 全員の学習が深ま るよう協力してい る」83.1% 学級の一員とし て授業に取組むよ うになってきた。	3	4	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを発表 する班学習、グルー プ学習の活用を増や す。</li> <li>さらに班にこだわ らない話し合い活動 に発展させる。</li> </ul>
2	自己肯定感・ 自己有用感を 向上させる	継続	ボランティア 活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア計画を作成し、生徒と職員全体に周知 を行う。</li> <li>だれもが同じ条件下で参加 できるボランティアの創意 工夫。</li> <li>学級、部活動など仲間とと もにボランティア活動に参 加しやすい工夫を行う。</li> </ul>	「ボランティア活動に参加し たことがある」80%以上	「ボランティア活 動に参加したこと がある」83.7% 校内のボランテ ィア活動を一年生 も周知できるように、学活等で情報 を発信でき、参加 者が増えた。	3	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が学級や部活動 の仲間とともに参加で きるために、学級活動 や道徳で奉仕活動の良 さや大切さについて考 える時間を設定し、思 いやりと感謝の心を育 む。</li> </ul>	「ボランティア活 動に参加したこと がある」88.0% 生徒会ボランテ ィア委員会や部活 動委員会が主体的 に提案することで、生徒同士で声 をかけあって参加 しやすい活動が増 えた。	5	5	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>学活や道徳等で、 奉仕活動について考 える場を設定する。</li> <li>限られた時間で、 生徒にも教員にも負 担がないような活動 を生徒と共に検討し、達成感が味わえ るような評価の工夫 を行う。</li> </ul>

		★ 継続	生徒の個性の違い・努力を認める取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級の話合い活動の充実</li> <li>生徒の活動の成果物の掲示や表彰の充実</li> <li>学級活動における具体的な役割の設定と評価の充実</li> </ul>	「自分にはよいところがある」85%以上 「学校生活で達成感や喜びを感じる」90%以上	「自分にはよいところがある」76.8%「学校生活で達成感や喜びを感じる」86.9% 行事等では、リーダーを中心に生徒の主体的な生活ができたが、日頃の生活では不十分である。	3	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員間で生徒の特性や生活の様子を丁寧に見て、変化を捉える。</li> <li>生徒間の対話の場を設定し、肯定的な評価を促す。</li> <li>生徒会執行部が自ら考え設置した「意見箱」で、生徒自身が提起する課題解決の取り組みを支援する。</li> </ul>	「自分にはよいところがある」79.5%「学校生活で達成感や喜びを感じる」89.0% 学校行事において生徒の成長に対する声掛けが増えたが、日頃の学級活動等で主体的・対話的な活動の場を通して生徒間が自他を認めあえる場が不十分であった。	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事だけでなく、日頃の学級活動や授業等で主体的・対話的な活動の場を通して、生徒間が自他を認めあえる場を充実させる。</li> <li>3年生の「生き方学習」を定着させ、自分を振り返ることで自分の良さに気付いたり、発表を通して他の生徒の生き方に共感し、お互いの違いに気付ける機会をつくる。</li> </ul>
3	自ら、体力づくりや健康づくりに取り組む生徒・職員を育てる	★ 継続	自ら健康な身体を維持しようとする気持ちを持つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会が主体となった健康づくりに向けた指導の充実</li> <li>保健便り等を活用した啓発活動の充実</li> <li>職員の業務改善による、計画的な業務の遂行</li> </ul>	「その日の内に寝て、睡眠7時間以上、朝食をとった」85%以上 勤務時間外在校時間が月45時間以内の職員65%以上	「その日の内に寝て、睡眠7時間以上とっています」74.6%「勤務時間外在校時間が月45時間以内の職員46.9% 生活の振り返りアンケートにより、実態を把握し課題を明確にした。	3	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>保体委員会の活動を促し、睡眠や朝食摂取など規則正しい生活の大切さについて、全校生徒に情報発信する。</li> </ul>	「その日の内に寝て、睡眠7時間以上とっています」78.5%「勤務時間外在校時間が月45時間以内の職員30.0% 生徒アンケートにより把握した生活の課題への対策を保体委員会で検討し、生徒集会で発表したり、便りを作成したりした。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、生徒集会で保体委員会からの呼びかけを行うとともに、便り等で保護者への啓発を行う。</li> </ul>
5	安全で安心できる学校を実現する	★ 継続	生徒・保護者の学校満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の心に寄り添った生徒指導体制の整備</li> <li>生徒、保護者との相談体制の充実</li> <li>「東朋見聞録」「学年通信」を通して学校生活の情報発信</li> </ul>	「安心して通っている」生徒90%以上 「安心して通わせている」保護者90%以上	「安心して通っている生徒」88.8% 「安心して通わせている」93.2% 多様化する生徒の特性について、専門家を招いて研修し理解を深めた。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>SCや関係機関との連携を図る。</li> <li>生徒の成果や活動の様子を積極的に情報発信する。</li> </ul>	「安心して通っている生徒」90.3% 「安心して通わせている」92.0% 生徒の生活アンケートをもとに面談をしたり、スクールカウンセラーへの相談を通して、早期に生徒や保護者の悩みを解決する手立てをつかみ、対応ができるようになった。	5	5	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年会や生徒指導委員会やいじめ防止委員会を密に行い、生徒に対して、心に寄り添った生徒指導体制を整備する。</li> <li>スクールカウンセラーと連携し、中間ギャップを防ぐための計画的な指導を行う。</li> </ul>

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。